

支部だより

今次総会にて、永幡支部長の後任として支部長を仰せつかりましたが、皆さん「多忙ということ、役員会の声に押されて、自らの高齢を省みず、お受けしたことをたいへん後悔しています。しかし、役員各位の全面的に協力してくだる約束を支えに、できることをしっかりとやりたいと覚悟を決めました。

さて、今次総会では中野顧問の開会挨拶、植田本部長代理挨拶、井浦校長挨拶、寺岡関西岳陽会（田川高校）会長祝辞で始まり、中野顧問のご挨拶にもありましたように、関西支部活動の特色は福岡県人会との緊密な繋がりにあります。県人会には、毎年県知事は出席いただいています、田川市長の出席はありませんでした。中野顧問の働きかけで、今年も田川市長が出席され、たいへん感動されたと話しておられました。関西岳陽会とは、この県人会を通して繋がりました。今回、関西岳陽会から、児玉顧問、寺岡会長、橋本事務局長の三人にご来席いただきました。議事におきましては、本部要請に基づき、今次総会から中部地区までエリアを拡大しましたので、名古屋の武本秀輝さん（S二十九卒）を副支部長に選出しました。また、開催時期について、春秋の季節のよい時期に設定するよう役員会に「一任いただきました。今後、役員会で慎重に検討し、開催規定を改定させていただきます。

懇親会では、熊埜御堂さん（S三十五年卒）のマジックに、皆目を丸くし、驚きの表情でした。私を相手に、ティッシュを使った手品の種明かしをしていただき、ティッシュはどこにでもありますし、これなら自分でもできると思われた方も多かったと思います。また、これも県人会に関係しますが、福岡県出身の落語家の笑福亭恭瓶さんに、博

多にわかと上方落語をやっていたいただき、参加者は皆、腹を抱えて笑い転げました。飲み、食べ、語り、驚き、そして笑い転げた懇親会の最後の締めを永幡支部長にいただきました。そして、二次会。幹事はどの程度参加してくれるのか、不安げに希望を募っていました。恭瓶さんの笑いが功を奏したのか、永幡支部長の一言が効いたのか、関西岳陽会の方も、野球の福島さんも、ほぼ全員参加、中野顧問が設定した会場「O×（まるのけ）」が手狭に感じました。S十九卒（旧制女学校）の石井傳子さんも元気に「ご参加、歌や踊りで大騒ぎ、「ちよつとだけ」という方もあまりの楽しさになかなか帰れず、延々三時間の二次会となりました。私も、先々の不安を払拭され、この皆さんの力をお借りすれば支部運営は何かかなると思わせてくれた二次会として二次会でした。皆さんに感謝でいっぱいです。終わりにあたり、たいへん失礼ではありますが、新型インフルエンザの発生

で、当初欠席の予定であった井浦校長先生には、遠路ご臨席いただき、謙虚でご誠実なご挨拶を頂戴し、そして暖かいお人柄にも触れさせていただきました。ご来賓本場に嬉しゅうございました。ご来賓の皆様方にお礼を申し上げますとともに、新役員の皆様今後のご協力を切にお願い申し上げます。支部総会のご報告にさせていただきます。



北九州支部総会

を終えて

北九州支部長

永濱

初子

(昭和三十年卒)

平成二十二年二月十五日、小倉北区の「ホテル クラウンパレス小倉」(旧

東京第一ホテル小倉)において、母校から井浦順二校長、本部から前田副会長、高松副会長、井手副会長、新田事務局長、濱井理事、そして福岡支部から吉田秀俊会長をお迎えし、第七回北九州支部総会・懇親会を開催いたしました。

「田川のシンボル」二本煙突と豎坑橋等の世界遺産登録に向けたシンポジウムに主催役員としてご出席されていた安藤本部長に代わり、今次総会では前田本部副会長にご挨拶を賜りました。主たる議題は、本部からの要請に基づき支部エリアの拡大（大分、宮崎、山口、広島、島根を加える）と北九州支部役員改選です。役員改選に関しては、「若返り」の実現が森山会長の悲願であり乍ら、役員会での人選が難航したため、若くもない私が森山会長の後を引き継ぐこととなりました。少なからず申し訳ない気持ちのあることは否めませんが、支部幹事としてS六十二年卒の倉智君たちに加わっていたいただいた結果、若干成りとも若返りが図れたのではないかと思います。今後とも、森山会長の思いとご意向を継承し、北九州支部の刷新と活性化に努力して参ります。さて、総会・懇親会におきましては、先の森山会長、坂井顧問、開催を前にしてお亡くなりになられた田中顧問、篠原事務局長等の「ご尽力により、七十名近くの会員の」ご参集を賜りました。